

佐賀の林業

No.628
2010 春号

平成22年5月1日発行 ●四半期1回発行 ●第628号



モクリン

県産木材利用施設 佐賀市富士町ダムの駅「しゃくなげの里」 平成22年3月 竣工

目次

| | | |
|----------|------------------------|----|
| みんなの林政 | 「平成22年度森林・林業関係施策の概要」 | 2 |
| 普及だより | 「流域育樹祭」 | 4 |
| | 「森林・林業木造見学会」 | 5 |
| | 「林床栽培研修会」 | 6 |
| 林業試験場だより | 「平成22年度 林業試験場の試験研究の取組」 | 7 |
| 現場の顔 | 「神埼郡森林組合 中島 和幸さん」 | 9 |
| トピックス | 「長いすづくり」 | 9 |
| お知らせ | 「表彰者の紹介」 | 10 |
| | 「林務関係職員の人事異動」 | 11 |
| 佐賀の木材市況 | 平成22年1月～3月 | 12 |
| 編集後記 | | 12 |

※ さがのよか木を応援する「よかウッド」へは、<http://www.yoka-wood.jp> へアクセスしてください。

**みんなの
林政****平成22年度 森林・林業関係施策の概要**

森林の持つ地球温暖化防止などの公益的な機能の発揮に加え、林業の再生による経済・雇用への貢献に期待が高まる中、「新しい佐賀の森林づくりビジョン」に沿って、以下の森林・林業施策を展開します。

(総予算額47億9千万円;対前年比119.6%)

1. 環境を育む森林づくり

森林の様々な機能が調和しながら、県の森林が全体として十分にその役割を果たすため、荒廃した森林や侵入竹林の整備を推進するとともに、森林整備に不可欠な路網整備に取り組みます。

また、森林の現況等に応じた治山施設の設置や森林被害に対する防除対策及び緑化の推進に取り組みます。

【特に重点的に取り組む事業】

◇森林環境税を財源として、県、市町、県民の協働により荒廃した森林を再生する。

「さかの森林再生事業」

◇竹の侵入により荒廃したスギやヒノキなどの人工林を対象に竹の伐採・整備を行う。

「侵入竹林等緊急整備事業(経済対策)」

◇進捗が遅れている森林整備の推進をするため、低コスト路網を高密度に作設するなど、新たな作業システムの構築を目指したモデル林を整備する。

「こだまの森林づくり整備事業」

◇集中豪雨等により荒廃した山地を復旧整備し、災害を防止する。

「復旧治山事業」

◇緑の県土づくり方針に基づき、平坦地の緑化に取り組む。

「緑の里づくり整備事業」

2. 県民協働

森林所有者だけでなく、県民や林業事業者、公共団体等がそれぞれの役割を果たしながら、「県民協働」による森林づくりを推進するため、意欲ある林家や森林組合等の林業事業者の取組を支援するとともに、効率的かつ安定的な林業経営を担い得る者の育成に取り組みます。また、森林ボランティア団体による森林づくり活動の支援に取り組みます。

【特に重点的に取り組む事業】

◇県民協働でこだまの森林づくりに取り組む。

「森林と緑の再生プロジェクト推進事業」

◇私有林における間伐等の森林整備に取り組む。

「森林整備加速化・林業再生事業」

◇中核的な林業担い手の育成を支援する。

「林業担い手育成確保対策事業」

3. 森林資源の持続的利用

県内の成熟した木材などの森林資源の利用を推進するため、競争力のある品質の安定した県産乾燥木材の安定的な供給体制づくりや県民への木材利用についての理解促進に取り組むとともに、特用林産物の生産体制の整備、及び需要の拡大を図ります。

【特に重点的に取り組む事業】

◇公共施設等の木造化、内装木質化を支援する。

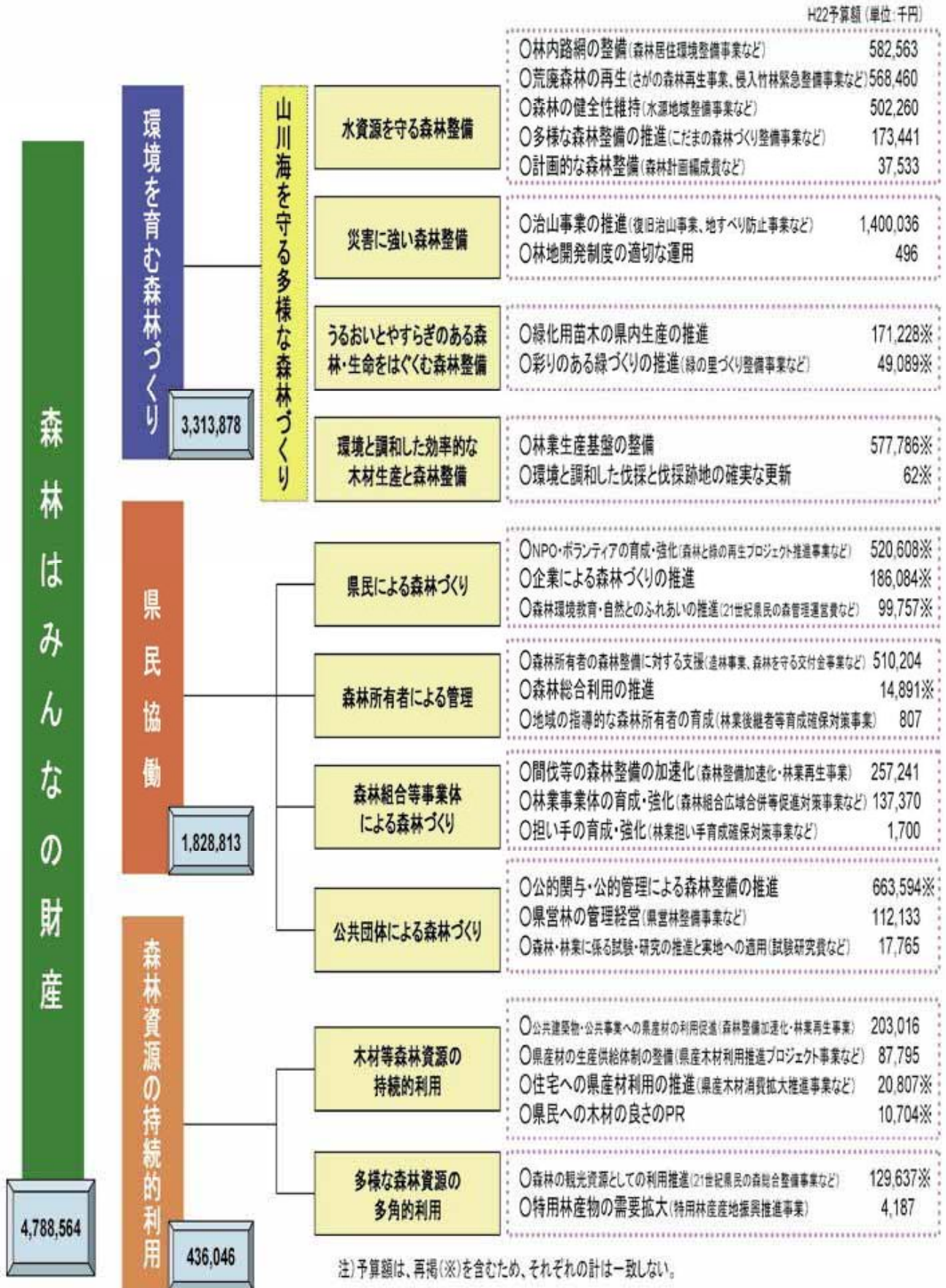
「森林整備加速化・林業再生事業(再掲)」

◇県産木材の利用拡大による森林資源の循環利用を推進するため、木材の生産拡大と木材の需要拡大を一体的に進める。

「県産木材利用推進プロジェクト事業」

◇しいたけの産地づくり及び竹材の活用を推進する。

「特用林産産地振興推進事業」





普及だより

さが22有明海流域育樹祭in嬉野が開催されました



平成22年3月7日(日)に佐賀東部流域森林・林業活性化センター及び嬉野市の主催により嬉野市嬉野町不動山の嬉野市有地において、さが22有明海流域育樹祭in嬉野が開催されました。当日は、応募参加者、不動山緑の少年団、スタッフ合わせて130名の参加があり、センター会長の谷口嬉野市長さんによる、佐賀県の精英樹で少花粉スギである「藤津14号」の記念植樹の後、約0.3haの会場に参加者全員でアラカシ、シラカシ、イチガシ、ヤマモモ、イロハモミジ、コブシ、ヤマザクラを植樹してもらいました。皆さん丁寧に植樹されていましたが、たいへん頑張ってもらい、植樹活動は、予定より早く終わりました。

ートは、地元鹿島嬉野森林組合の緒方さんとチェーンソーアートクラブ中津江村の山口さんに実演してもらい、短時間ながら、鷲や尾長鶏、虎や面浮立の面など、見事な作品を創ってもらいました。



(植樹活動)



(チェーンソーアート実演会)

模擬間伐では、皆さんに樹高当てクイズに挑戦してもらい、2名の方に、「ぴったり賞」と、「おいしいで賞」が当たり、賞品のチェーンソーアートが贈られました。森林体験の終了後、閉会式を行い、それぞれ帰途に着かれました。参加者の皆さん、大変お疲れさまでした。

お昼には、地元嬉野町婦人会による、具だくさんの豚汁の振る舞いがあり、当日は、肌寒かったこともあって、皆さん、たいへん満足された様子でした。

午後からは、森林体験として、子供達は、竹鉄砲つくり、大人の方は、チェーンソーアート見学と、間伐模擬伐倒見学に参加していただきました。チェーンソー

なお、参加者の皆さんにいただいた、アンケートの結果では、皆さん森林や環境について興味を持たれており、次回も参加したいなど、好評な結果が伺えました。最後に今回は、非常に天気が心配されましたが、何とか雨が降らず開催できたことは、私達の日ごろの行いの良さからきたのかなと思いました。

(鹿島農林事務所 林務課 普及担当)



普及だより

森林・木造住宅見学会を開催

～今、私たちに出来ること、木を使って、森を育て、地球を守ること～



平成22年3月14日(日)に佐賀西部流域森林・林業活性化センター主催で約70名の参加により「森林・木造住宅見学会」を開催しました。

この見学会は、県民の方々に森林の整備や木材の利用を通じて、森林資源の循環利用と地球温暖化(環境)対策に貢献することを、より分かり易く身近なものとして感じてもらうために、県産木材利用推進プロジェクトに参加する企業(地産地消応援団)や活性化センター会員の協力を得て木材をふんだんに使った木造住宅の見学を行ったものです。

見学会では、申込、参加された方の中から、抽選で木造住宅を建てる予定のある方を対象に県産柱材をプレゼントする特典付きで行ったことが多くの参加を呼び、当初予定していた参加者数を変更する事態にもなるほどでした。

それでは、一日かけて見学したコースを写真によりご紹介します。



①唐津市七山(市有林)スギ:50年生

面積:17ha H21 木材搬出量:約900m³
作業実演者:七山村森林組合【唐津市七山仁部】



②唐津市個人住宅(新築:引き渡し前)

延床面積:約37坪 木材使用量:約21m³
施工者:建築 吉村【唐津市浜玉町東山田】
特徴:内装は主に七山産スギを使用。建具も杉材のオーダーメイド。



③唐津市個人住宅(入居済:引渡し後半年経過)

延床面積:約37坪 木材使用量:約16m³
施工者:建築 吉村【唐津市浜玉町東山田】
特徴:住みたい佐賀の家づくり促進事業(県補助)を活用。無垢材や珪藻土の人に優しい素材を使用。



④唐津市個人住宅(新築:引き渡し前)

延床面積:約96坪 木材使用量:約49m³
施工者:峯建築工房【唐津市神田】
特徴:半地下がある6層の2階建の二世帯住宅。構造材は杉、床やウッドデッキに桧を使用。



⑤唐津市個人住宅(引き渡し後半年経過)

延床面積:39坪 木材使用量:20m³
施工者:(株)孝和建设【唐津市原】
特徴:心地良いリビングをテーマに安らぎと温もりを感じさせる住宅。構造材、天井には県産杉、桧材を使用。



⑥伊万里市個人住宅(引き渡し後2年経過)

延床面積:82坪 木材使用量:35m³
施工者:(有)斉藤建設【伊万里市大坪町】
特徴:特に座敷(天井、床、書院等)は全て無垢材を使用。



⑦伊万里市個人住宅(引き渡し後1年経過)

延床面積:62坪 木材使用量:26m³
施工者:(有)斉藤建設【伊万里市大坪町】
特徴:玄関、広縁前は丸桁、丸柱。和室は無垢材を使用した木の香り漂う健康住宅。

最後になりますが、今回の見学会に快く住宅を提供していただいた施主様、また、見学者への説明、対応していただいた企業・団体の皆様、ご協力ありがとうございました。

(唐津農林事務所 林務課 普及担当)



普及だより

「林床栽培研修会」の開催



○はじめに

伊万里西松浦地区林業職員連絡協議会は、管内の市町、森林組合、農林事務所の林務担当職員で構成されており、年に1～2回ほど会員の林業技術に対する知識・技能向上のための研修会を開催しております。

今回(3月19日)は、県の林務職員OBで、現在、普及指導サポーター(専門分野:緑化)として活躍されている松尾保則先生を講師に迎え、林床栽培研修会を開催しました。



(講師の松尾先生)

○センリョウの移植

センリョウについては、以前、有田町から「10年ほど前に町有林内にセンリョウを植栽したが、なかなか実が付かない。どこか適当な場所に移植したいが・・・」と相談を受けておりましたので、やや強度の列状間伐を実施した県行造林内(土地所有者は有田町)に移植することにしました。当日は、センリョウの掘り取り作業から始めましたが、松尾先生からも、「ここでは、センリョウにとっては、ちょっと日照不足だ」と指摘されました。また、掘り取ったセンリョウについて、昨年伸びた枝を4～5本程度残して、後は全部切り落とすよう指導を受けました。移植先の県行造林に移動後、松尾先生から植栽適地を選定していただき、全部で60株ほどのセンリョウを手分けして植栽しました。順調にいけば、10月頃から実を付け始めるとのことでしたが、鳥が実を食べにくる危険もあるので、その際にはネットを被せるよう指導を受けました。



(センリョウの掘り取り)

○サカキ・ヒサカキの植栽

センリョウ同様に、植栽適地を松尾先生に選定していただき、ヒサカキを斜面上部に、サカキを中腹部に、それぞれ30本ずつ植栽しました。植栽後、栽培管理についての講義を受け、サカキについては、枝葉の収穫に要する労力を考慮に入れ、できるだけ低い仕立て(1.5m前後)にすること、また、ヒサカキについては、成長具合をみながら、地上から20cm程度の高さで伐採することにより、1本のヒサカキから200～300本の枝葉を収穫できるようになるとの指導を受けました。



(サカキ・ヒサカキの植栽)

○おわりに

今回、快く講師をお引き受け下さった松尾先生に感謝申し上げるとともに、今後は、会員で楽しみながら、栽培管理をしっかりやっていきたいと思っております。

(伊万里農林事務所 林務課 普及担当)



林業試験場 だより

平成22年度 林業試験場の試験研究の取組



今年度林業試験場で取り組む試験研究について紹介します。
〔特用林産関係〕
新規課題として「安全安心な県産食用きのこ栽培技術に関する研究」に取り組みます。

消費者の健康志向の高まりから、近年、キノコは機能性食品・健康食品として注目されるようになってきました。一方、食の安全安心という観点から害虫などの異物の混入に対しては厳格な対応が求められています。そこで、キノコ害虫類の生態を研究しその防除方法の確立を目指します。

また、近年原木シイタケ生産が減少していることから、クヌギ原木の利用が進まず、それに伴いクヌギが大径化しています。大径化したクヌギはほだ木として扱いにくく、シイタケ菌糸の蔓延も遅れシイタケ発生量が安定しないなどの問題が生じます。大径木によるシイタケ栽培の安定化を目指した研究に取り組みます。



しいたけほだ場

〔林産関係〕

県内の森林資源の充実に伴い、生産される木材の大径化が予測されます。このため、大径材の需要拡大を目指して、大径材から製材される梁・桁材の乾燥技術の研究に取り組んでいます。

また、木材は腐朽するという懸念から利用が進まないという一面があるため、既設木質土木資材の耐久性調査を行い、木材の耐用年数を明らかにしていきます。



木材乾燥試験

〔育種関係〕

現在、スギ・ヒノキ花粉症や地球温暖化が社会的な問題となっていて、花粉の少ない品種や地球温暖化対策としてCO2吸収能力の高い品種の選抜が期待されています。また、従来の柱材のほか、集成材用素材など木材需要の多様化に応じた品種の選抜が必要となっています。そこで、花粉の少ない特徴や成長の早い特徴を持ったスギ・ヒノキ精英樹の選抜に取り組みます。



次世代精英樹(FAKOPP試験状況)

〔育林関係〕

手入れがされず放置された荒廃スギ・ヒノキ人工林に、広葉樹の自然導入により針広混交林へ誘導する技術を検討しています。強度に間伐された人工林を対象に、侵入した広葉樹の樹種と生育状況、林内の明るさの経年変化、残されたスギ・ヒノキの成長状況を調査します。

また、森林造林において、下刈省力化手法の検討や広葉樹植栽木の台切り試験を行い、低コスト育林手法の開発に取り組めます。

〔その他の研究〕

「森林インベントリ調査」により、落葉層も含む森林土壌の炭素量を測定調査しています。これまでの調査結果によると、森林1ha当たり50トン～150トンもの炭素が土壌に蓄積されており、地上部の樹体内に蓄積されている炭素と同等以上であることがわかりました。

その他、松くい虫薬剤防除時期を決定するための参考資料を得るために、松を枯らすマツノザイセンチュウの運び屋であるマツノマダラカミキリの発生時期を調査する発生予察事業に取り組んでいます。

(林業試験場 研究開発担当)

林業試験場
だより

平成22年度 試験研究課題 一覧表



| 課題名 | 研究期間 | 研究目的・目標 |
|----------------------------|--------|--|
| 1 安全安心な県産食用キノコ栽培技術に関する研究 | H22～26 | 消費者の健康志向の高まりから、近年、キノコは機能性食品・健康食品として注目されるようになってきている。一方、食の安全安心という観点から害虫などの異物の混入にたいしては厳格な対応が求められている。そこで、キノコ害虫類の生態を研究しその防除方法の確立を目指す。 |
| 2 針広混交林化へ向けた広葉樹育成技術に関する研究 | H21～25 | 木材価格の低迷により、手入れがされず放置された荒廃スギ・ヒノキ人工林が増えている。一方、佐賀県森林環境税が導入され、これらの放置荒廃森林を強度間伐して針広混交林へ誘導しようとする試みがスタートした。このため、荒廃人工林を針広混交林へ広葉樹の自然導入により誘導する技術を開発する。 |
| 3 県産スギ大径材の乾燥技術に関する研究 | H20～24 | 県内の人工林は、長引く木材価格の低迷により、立木伐採が見送られ、樹木の径化が進んでいる。一方、大径材は乾燥に長期間を必要とするため、需要があっても、それに即応して乾燥材を供給することが出来ない状況にある。このため、品質の安定したスギ大径材の乾燥材を早期に生産・供給するため、大径材に対応した乾燥技術を開発する。 |
| 4 次世代スギ・ヒノキ精英樹の選抜に関する研究 | H19～25 | スギ・ヒノキの育種においては、心材色や強度など主要材質特性のほかCO2の吸収源や花粉症対策に優れた特性を有する品種の開発が求められている。このため、これまでの精英樹よりも一段と優れた次世代の精英樹選抜を行う。 |
| 5 低コスト育林に関する研究 | H19～25 | 県では、多様な森林づくりとして広葉樹植栽などを進めているが、こうした取り組みを推進する上で、森林造成コストを低減させることが重要となっている。このため、下刈省力化工法の検討や広葉樹植栽木の台切り試験を行い、有効な手法を開発する。 |
| 6 木質土木資材の耐久性と新たな防腐処理に関する研究 | H14～23 | 健全な森林の維持造成を図る中で、県産材の公共土木事業などにおける多角的利用の推進が求められている。このため、木質土木資材の利用拡大に資する新たな防腐処理技術の検討や木質土木資材の経年的な耐久性調査を行う。 |
| 7 森林吸収源インベントリ情報整備事業 | H18～22 | H17年2月に京都議定書が発効し、温室効果ガスの削減目標達成に向け国際合意に対応した森林吸収量の科学的算定が緊急の課題となっている。県においても、H16年3月に佐賀県地球温暖化防止地域計画が策定され、森林の吸収源としての機能が重視されており、森林における炭素動態計測に資する情報収集が重要となっている。このため、本県の定点において森林土壌の炭素量等の調査・分析を行う。 |



現場の顔

若い力で地元の山を守っています



神埼郡森林組合 中島 和幸さん(28)

私は、神埼郡森林組合で働き始めて今年で7年目になります。

以前は、父親の指導の下、建築大工を志していましたが、不況の煽りを受けて休業を余儀なくせざるを得ない日々が続きました。

そのような中、当時の神埼郡森林組合の総代の方から、林業への転機を勧められこの世界へ飛び込み今に至っています。

入った当初は、慣れない作業で体力が持たない位に毎日がきつく感じ、また、チェーンソー等の機械を扱

う事に恐怖心を抱いていました。

しかし、続けていくにつれて、この仕事へのやり甲斐を感じ、山林を手入れしていく事の大切さを学びました。

また、林業作業士研修を受講した際、各組合から参加していた同年代の人達とのふれあいもあり、林業に対する楽しさがより一層広がりました。

また、最近では、徐々にではありますが、間伐材の搬出といったレベルの高い仕事に従事する機会が増え、それに伴い危険な作業も増えています。

そのような難易度の高い現場の作業についても、安全かつ迅速にこなせるような一人前の作業士を目指して、今後もなお頑張っていきたいと思っています。

(農林事務所より)

中島さんは、フォークリフト運転技能を初め、玉がけ、はい作業、林業架線作業などの幅広い資格・免許を積極的に取得され、日々、自己研鑽に努め頑張っておられます。

今後、中島さんの益々の活躍に期待しています。

(佐賀中部農林事務所 林務課 普及担当)

トピックス

林務OB「長椅子」づくりに取り組む

「佐賀県みどり会」(佐賀県林務技術職員退職者会)では4月8日(木)に、ボランティアによる長椅子づくりに取り組みました。

場所は、富士大和森林組合の小径木加工場で、みどり会の会員8名に参加いただきました。

事前に、富士大和森林組合において、スギ丸太を長さ2m、幅30～40cmの半割に製材してもらいました。

当日は、まずボルトとナットで座面に脚を取り付けました。次に椅子の表面をブラシとサンダーで磨き、最後に面取り(角を丸くする)を行いました。この工程は昼までかかり、結構、体力と技術を必要とし、参加した皆さんは体中を粉塵で真っ白にして動き回っていました。

最後に、製作した長椅子のひとつひとつに、木材の良さをPRするシールの「この椅子は佐賀県産木材を使用して製作しています。環境にやさしく、地球温暖化防止に役立っています。」を添付して、10脚の長椅子を完成しました。

「みどり会」では製作した長椅子を平成17年から小・中学校、福祉施設、博物館等へ寄贈しています。

今回も製作した長椅子を県内の公共施設に寄贈したいと考えています。みどり会会員は「死ぬまで現役」をモットーとし、「長椅子」づくりを通して、佐賀県の「木づかい運動」に貢献していきたいと考えています。

最後になりましたが、「富士大和森林組合」の組合長さん、小径木加工場長さんをはじめ職員の方々に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。また、参加されたみどり会の会員皆様は大変お疲れ様でした。

(佐賀県みどり会事務局 山田祐司)





お知らせ

佐賀市婦人林業研究会「農林水産大臣賞」受賞

平成22年3月3日に東京都内で開催された「平成21年度全国林業グループコンクール」において、佐賀市婦人林業研究会(西要子会長:会員86名)が県内のグループで初めて、最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞されました。

コンクールでは、各地方ブロックから選ばれた6グループにより日頃の活動状況が発表され、九州地区の代表として参加した当研究会は、会員の技術向上のための定期的な研修会の開催や地域の森林整備推進を図るための戸別訪問による間伐実施の働きかけ、里山の豊かな食材を活かした「森の香 菖蒲ご膳」の提供など、日頃の幅広い活発な活動が高く評価されました。

西会長は、「これからも山林所有者であることに誇りを持って、森の哲学を子供達に伝え、里山の四季を、山からのメッセージに託して友人を増やし、有形無形の山の恵を皆でいただく喜びを分け合いながら、山も里も町も同じテーブルで森を論じる活動を推進し、グ

ループの活動を続けたい。」と話されております。今後とも益々の御活躍を期待します。農林水産大臣賞受賞、おめでとうございます。



佐賀市婦人林業研究会と関係者の皆さん
(林業課 専門技術員)

平成21年度「国有林間伐推進コンクール」
最優秀賞に東部林業

平成21年度「国有林間伐推進コンクール」の表彰式・発表会が平成22年1月21日、林野庁の会議室で行われ、東部林業株式会社(佐賀市大和町)が最優秀賞を受賞されました。

東部林業は、簡易で崩れにくい路網づくりと列状間伐をこまめに組み合わせ、毎年確実に収益を高めており、この実績が民有林への波及効果が高いと評価を受けたことによる受賞です。

東部林業は、綿密な路網整備と伐採計画による経営計画の確かさ、確かな技術を持った職員に支えられ、県内の模範的な林業事業体として成長しています。

今後とも益々のご活躍を期待します。最優秀賞おめでとうございます。



表彰式の様子(林野庁にて)
(林業課 専門技術員)



人事

林務関係職員の人事異動(平成22年4月1日付)

☆☆☆ 県土づくり本部 ☆☆☆

○森林整備課

参事(業務課 副課長) 笠原 正博
副課長(唐津農林 係長) 一高 吉輝

【計画調整担当】

係長(林業課 係長) 吉良 孝広
副主査(生産者支援課 主事) 西村 和秀
副主査(みどり推進担当 副主査) 宇藤 志保
技師(臨)(みどり推進担当) 勝山ゆかり

【森林管理担当】

主査(社会・文化財課 主査) 上村亜紀子
技師(佐賀中部農林 技師) 江島 淳

【森林保全担当】

主査(西部家畜保健衛生所) 井手 和敏
嘱託 兵動 律子

【治山担当】

主査(園芸課 主査) 武田 経孝
技師(新採) 小柳憲次郎

【みどり推進担当】

主査(森林整備課 副主査) 吉谷 剛

○水資源対策課

係長(佐賀中部農林 係長) 佐熊昭一郎

○入札・検査センター

副検査監(森林整備課 副課長) 内岡 親

○建設・技術課

主査(建設技術課 副主査) 宇藤 新祐

○企画・経営グループ

主査(鹿島農林 主査) 佐藤 繁和

☆☆☆ 現地機関 ☆☆☆

○佐賀中部農林事務所 林務課

課長(鹿島農林 課長) 大塚 静雄

【普及担当】

係長(林業課 係長) 黒岩 慶三
主査(伊万里農林 主査) 白藤 季光

【治山担当】

技師(臨) 成富 新

【森林管理担当】

副主査(技師) 生島 理絵
技師(武雄農林 技師) 立丸雄一郎

○鳥栖農林事務所 林務課

課長(入札・検査センター 副検査監) 平田 博明
係長(武雄農林 主査) 引地 繁雄

○唐津農林事務所 林務課

【森林土木担当】

係長(伊万里農林 係長) 山口 広幸
主査(唐津農林 副主査) 夏井雄一朗
技師(森林整備課 技師) 藤原 吉生

○伊万里農林事務所 林務課

【普及担当】

主査(森林整備課 主査) 権藤 健太

【治山担当】

主査(水資源対策課 主査) 古賀 三博

【森林管理担当】

技師(森林整備課 技師) 池田 浩章

○武雄農林事務所 林務課

課長(林業課 副課長) 外尾 康昭
主査(企画・経営グループ 主査) 北川 恭浩
主査(林業課 副主査) 山下 史朗
技師(伊万里農林 技師) 古賀 保匡

○鹿島農林事務所 林務課

課長(林業試験場 専門研究員) 山上 健次

【森林土木担当】

技師(唐津農林 技師) 前田 俊彦

☆☆☆ 生産振興部 ☆☆☆

○林業課

副課長(鳥栖農林 課長) 有田 修三

【総務担当】

副主任行政技術員(有明水産振興センター) 藤木久美子

【間伐造林担当】

係長(鳥栖農林 係長) 山口 光洋
嘱託 古藤 栄子

【林産振興担当】

係長(森林整備課 係長) 小山田順二
主査(佐賀中部農林 主査) 矢野 博典

【専門技術員】

主任専門技術員(佐賀中部農林 課長) 浦田 明
専門技術員(伊万里農林 主査) 小山由希子

☆☆☆ 現地機関 ☆☆☆

○林業試験場

副場長(武雄農林 課長) 蒲原 邦行

【研究開発担当】

係長(普及指導担当係長) 宮崎 潤二

【普及指導担当】

係長(林業課 専門技術員) 淵上 武俊

☆☆☆ 暮らし環境部 ☆☆☆

○有明海再生・自然環境課

副主査(有明海再生・自然環境課技師) 山下 実

☆☆☆ 退職者(3月31日付) ☆☆☆

林業試験場 副場長 市丸 道夫
林業課 主任専門技術員 黒木 尊信



佐賀の木材市況（平成22年1月～3月分）

| 区分 | 樹種 | 規格・寸法 | | 等級 | 1月 | | 2月 | | 3月 | |
|-----|-----|--------------|---------|--------|------------------------|-------------|------------------------|-------------|------------------------|-------------|
| | | 径(寸法) c m | 長さ m | | 価格 円/m ³ | 増減 (対前月) | 価格 円/m ³ | 増減 (対前月) | 価格 円/m ³ | 増減 (対前月) |
| 丸太 | スギ | 14～16 | 3 | 並 | 8,800 | 200 | 9,300 | 500 | 9,200 | -100 |
| | | 18～22 | | " | 10,700 | 700 | 11,100 | 400 | 11,400 | 300 |
| | | 24～28 | | " | 11,100 | 400 | 11,200 | 100 | 11,500 | 300 |
| | | 30～ | | " | 10,500 | -100 | 11,100 | 600 | 11,700 | 600 |
| | | 14～16 | 4 | " | 9,700 | 700 | 9,300 | -400 | 9,600 | 300 |
| | | 18～22 | | " | 11,300 | 700 | 11,000 | -300 | 12,000 | 1,000 |
| | | 24～28 | | " | 11,500 | 200 | 11,400 | -100 | 12,300 | 900 |
| | | 30～ | | " | 11,800 | 200 | 11,500 | -300 | 12,300 | 800 |
| | | 14～16 | 6 | " | 14,300 | 200 | 13,400 | -900 | 13,300 | -100 |
| | | 18～22 | | " | 15,300 | 300 | 13,600 | -1,700 | 13,700 | 100 |
| | | 24～28 | | " | 16,000 | -2,000 | 18,000 | 2,000 | 18,000 | 0 |
| | | 30～ | | " | 18,000 | -5,000 | 23,000 | 5,000 | 20,000 | -3,000 |
| | ヒノキ | 3 | 14～16 | " | 13,600 | 2,000 | 12,500 | -1,100 | 11,900 | -600 |
| | | | 18～22 | " | 16,400 | 800 | 15,000 | -1,400 | 14,900 | -100 |
| | | | 24～28 | " | 17,300 | 500 | 15,200 | -2,100 | 16,700 | 1,500 |
| | | | 30～ | " | 22,200 | 1,900 | 19,800 | -2,400 | 20,800 | 1,000 |
| | | 4 | 14～16 | " | 18,200 | -200 | 17,700 | -500 | 17,400 | -300 |
| | | | 18～22 | " | 19,000 | 200 | 18,300 | -700 | 17,700 | -600 |
| | | | 24～28 | " | 19,600 | 1,600 | 17,200 | -2,400 | 18,000 | 800 |
| | | | 30～ | " | 25,800 | 4,100 | 19,800 | -6,000 | 19,500 | -300 |
| 6 | | 14～16 | " | 22,600 | -100 | 22,000 | -600 | 22,000 | 0 | |
| | | 18～22 | " | 22,800 | 100 | 22,000 | -800 | 21,600 | -400 | |
| | | 24～28 | " | 35,000 | 5,000 | 30,000 | -5,000 | 30,000 | 0 | |
| | | 30～ | " | 40,000 | -45,000 | 50,000 | 10,000 | 40,000 | -10,000 | |
| 製材品 | スギ | 10.5×10.5 | 3 | 特1等 | 27,500 | 1,000 | 27,500 | 0 | 27,500 | 0 |
| | | 12.0×12.0 | | " | 27,500 | 1,000 | 27,500 | 0 | 27,500 | 0 |
| | | 10.5×10.5 | 4 | " | 23,500 | 1,500 | 23,500 | 0 | 23,500 | 0 |
| | | 12.0×12.0 | | " | 23,000 | 0 | 23,000 | 0 | 23,000 | 0 |
| | ヒノキ | 10.5×10.5 | 3 | " | 45,000 | 9,000 | 45,000 | 0 | 45,000 | 0 |
| | | 12.0×12.0 | | " | 52,500 | 0 | 52,500 | 0 | 52,500 | 0 |
| | | 10.5×10.5 | 4 | " | 49,000 | 0 | 47,500 | -1,500 | 47,500 | 0 |
| | | 12.0×12.0 | | " | 49,000 | 0 | 47,500 | -1,500 | 47,500 | 0 |

※ スギ・ヒノキ丸太：佐賀木材（株）、（協）唐津木材市場、（株）伊万里木材市場、佐賀県森林組合連合会共販所の平均価格
スギ・ヒノキ製材品：（株）伊万里木材市場

表紙

表紙の建物は、富士町の「ダム駅 しゃくなげの里」です。現在建設中の嘉瀬川ダムを望む展望施設兼物産販売施設として今年の3月に竣工しました。嘉瀬川ダムが完成したらこの場所からダム湖と富士町の豊かな自然の風景を一望することができ、多くの来訪者が訪れることでしょう。建物は地元のスギで建てられており、建物の外観は個性的な三角形がまず目を惹きます。杉の板で覆われた外壁は周りの自然とやさしく調和しています。内部は、大きなスギの柱が中央に据えられており、壁、天井にふんだんに使われた木材は、柔らかく暖かみのある触感と合わさって落ち着いた雰囲気醸し出しています。

（林業課 専門技術員）



佐賀県

<http://www.pref.saga.lg.jp/>

編集後記

木造住宅見学会や育樹祭の開催等で県民参加のイベントに多くの県民の方が関心を持って参加されています。最近の経済不況で住宅建築が低調ながらも、木の家に対する県民の関心が高いことに勇気づけられます。木材市場ではスギの価格が1万円割れという現実も存在しますが、木の家を求めている人たちの期待に応えるよう、木材需要の掘り起こしにがんばっていかねばならないと思います。

森林・林業の応援団である県民の皆さん、また、森林・林業の現場で頑張っている人のビタミン剤になるべく最新の森林・林業の情報やできるだけ明るい話題を提供していきたいです。（A.U）